

小児科

(1) 到達目標

プライマリ・ケアにおいて小児の診療を適切に行うことができる医師になるために、小児および小児疾患の特性を理解し、主要疾患の診療や小児保健にかかわる基本的な能力と態度を身につける。

(2) 行動目標（代表的行動）

1. 小児の正常な身体発育、精神発達を理解し、明らかな異常を指摘できる。
2. 新生児から思春期まで年齢や成長発達に応じた対応ができる。
3. 病気の子どもやその家族の心情に配慮できる。
4. 小児の全身状態や理学的所見を的確に把握できる。
5. 心肺蘇生を含む小児の初期救急治療ができる。
6. 感染性発疹症の鑑別ができる。
7. 感染症の診察に際して感染対策の実施ができる。
8. 一般小児の静脈採血、血管確保ができる。
9. 年齢別薬用量に基づき、一般薬剤の処方ができる。
10. 新生児の診察ができる。
11. 新生児の足底採血ができる。
12. 乳幼児健康診断、保健育児指導、予防接種などについて経験する。
13. 小児虐待についての知識を深める。

(3) 方略（LS）

LS1：実地研修

1) 病棟

- ・ローテート開始時には、指導医・上級医と面談し、研修目標の設定を行う。ローテート終了時にはフィードバックを受ける。
- ・こども病棟では、担当医として入院患者を受け持つ。主治医（上級医）の指導のもとで問診や身体診察や検査データの把握を行い、治療計画の立案に参加する。毎日担当患者の回診を行ない、指導医・上級医と方針を相談する。輸液、検査、処方などのオーダーを行う。
- ・NICUでは、上級医とともに回診を行い、新生児医療の特殊性を理解する。産科新生児室の回診につき、正常新生児の診察が出来るようにする。診察した所見をカルテに記載する。
- ・採血や点滴血管確保、エコーなど小児に対する診療手技を行う。
- ・インフォームドコンセントの実際を学び、簡単な事項については主治医の指導のもとで自ら行なう。

2) 外来

- ・指導医または上級医とともに外来診療を行い、診察の方法や検査の適応、薬物療法について学ぶ。検査、処方などのオーダーを行う。
- ・家族から患者の情報を得たり、家族に病状の説明をしたりする方法を習得する。
- ・上級医の指導のもとで乳児健診や予防接種を実際に行う。

3) 救急外来

- ・小児でよく見られる症状（発熱・呼吸障害・チアノーゼ・嘔吐・下痢・痙攣）に適切に対応できるよう救急外来の一次診療を行う。
- ・二次救急が必要な患者に対しては、小児科医の指導のもとで知識と基本的手技を身につける。

LS2：症例検討会

- ・（毎朝8時、参加は任意）：前日に入院した患者の症例提示を行い、診断・治療の概要を理解する。
- ・こども病棟（火曜日16時45分）：担当患者の症例提示を行い、議論に参加する。
- ・NICU（木曜日16時45分）：入院患者の症例検討会に参加する。

LS3：勉強会

- ・英文抄読会（火曜日18時）：小児疾患に関する英文抄録を研修3週目と6週目に読む。
- ・学会のリハーサルに参加して、学会発表の方法についての知識を得る。

(4) 評価 (EV)

- 1) 研修医は、ローテーション終了時に自身の研修達成度を確認しながら、自己評価を行う。
- 2) 指導医あるいは上級医は、全ての行動目標に対して、観察記録あるいは口頭試験などによる形成的評価を適宜行う。目標によっては必要に応じて看護師など医師以外の評価者も観察記録による形成的評価を行う。総合的な評価結果はローテーション終了時にfeed backされるとともに、オンライン臨床研修評価システムにて記載される。
- 3) 指導医は提出された病歴要約により、経験すべき症候・疾病・病態に関する理解度について形成的評価を行う。

【週間スケジュール例】

		月	火	水	木	金
朝 (参加は任意)		採血 症例検討会	採血 症例検討会	採血 症例検討会	採血 症例検討会	採血 症例検討会
A	午前	外来	病棟回診A	NICU	外来	病棟回診B
	午後	病棟	全回診	外来	予防接種	病棟
B	午前	病棟回診A	外来	病棟回診B	NICU	外来
	午後	心臓外来	全回診	乳児健診	外来	乳児健診
16:45～			症例検討会 抄読会		症例検討会	

1週間に0.5日分を2回以上、一般外来研修を行う

1週ずつAとBを交互に研修する。